

作成日： 2001年12月20日

改訂日： 2020年5月13日

# 安 全 デ ー タ シ ー ト

## 1.製品及び会社情報

製品名	カチオンS	(主な用途) モルタル接着増強材
会社名	株式会社 豊運	
住所	大阪市東住吉区今川3-12-4	
担当部門	技術本部	
電話番号	0494-62-5545	
FAX番号	0494-62-5345	
緊急連絡先	東日本営業部 福島県石川郡平田村大字西山字水尾111-3	電話番号 0247-54-3232
	西日本営業部 大阪市東住吉区今川3-12-4	06-6708-8131
製品番号	E-1712	

## 2.危険有害性の要約

GHS分類		
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)、(経皮)	区分 5
	急性毒性 (吸入：ガス)	分類対象外
	急性毒性 (吸入：蒸気)	分類できない
	急性毒性 (吸入：粉塵)	区分外
	急性毒性 (吸入：ミスト)	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分 3
	眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	区分 2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分 2A
	特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 (急性)	区分 3
	水生環境有害性 (長期間)	区分 3
	オゾン層への有害性	分類できない

### GHSラベル要素



注意喚起語	警告
危険有害性情報	飲み込むと有害のおそれ 皮膚に接触すると有害のおそれ 軽度の皮膚刺激 強い眼刺激 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い 水生生物に有害 長期継続的影響によって水生生物に有害
注意書き 安全対策	全ての安全注意をよく読み、理解するまで取扱わないこと。 保護手袋/保護衣/保護メガネ/保護面を着用すること。 緊急時を除き、環境への放出を避けること。 取扱い後は手、顔をよく洗うこと。
応急措置	皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。 眼に入った場合: 水で15分間以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。
保管	施錠して保管すること。
廃棄	内容物/容器を、国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

### 3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分:混合物  
化学名:SBR(合成ゴム)ラテックス

成分名	CASNo.	官報公示整理番号 (化審法)	含有量
ブタジエン共重合体 ポリ(オキシエチレン)= ノニルフェニルエーテル	登録あり 68412-54-4	既存 1-410	43~44% 2.2%
水	7732-18-5	—	54~55%

・化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)の第1種指定化学物質:ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル  
※厚生労働省指針値14物質(アセトアルデヒド・フタル酸ジ-n-ブチル・パラジクロロベンゼン・エチルベンゼン  
・ホルムアルデヒド・n-ノナール・スチレン・テトラデカン・トルエン・キシレン・クロルピリホス・フェノール  
・フタル酸ジ-2-エチルヘキシル・ダイアジノン)は含まない。  
※アスベストに類する物質は含まない。

日本接着剤工業会認定ホルムアルデヒド放散等級自主制度による登録番号  
登録番号:JAIA-012409  
区分 :F☆☆☆☆

### 4.応急措置

吸引した場合: 速やかに空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努め、医療処置を受ける。  
皮膚に付着した場合: 付着した衣服、靴を脱ぎ、付着した部分を水又は微温湯を流しながら洗浄する。  
眼に入った場合: 速やかに清浄な水で最低15分間洗眼した後、医療処置を受ける。  
飲み込んだ場合: 水でよく口の中を洗浄した後、直ちに医療処置を受ける。  
無理に吐き出させないようにする。

### 5.火災時の措置

消火剤: 水、強化液、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素消火剤、乾燥砂  
火災時の特有の危険有害性: 製品自体は可燃物ではないが、水分が蒸発した後の乾燥物は可燃性である。燃焼の際は、火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。  
消火方法: 延焼の恐れのないように水スプレーで周辺を冷却する。  
消火を行う者の保護: 消火作業は風上から行う。  
適切な保護具(耐熱性衣類など)を着用する。

### 6.漏出時の措置

人体に対する注意事項  
保護具及び緊急時措置: 漏出時の処理を行う際には保護手袋、保護長靴、保護メガネなど適切な保護具を着用する。  
環境に対する注意事項: 流路を毛布、土のうなどを用いてせき止め、河川、湖沼への流出を防止する。  
河川、湖沼へ流入した場合は、必要に応じ、警察署・消防署・都道府県市町村の公害関連部署・河川管理局・水道局・保健所・農協・漁協などに連絡を取る。  
封じ込め及び浄化の方法及び機材: 多量流出の場合はバキュームなどで汲み上げ、又、少量流出の場合はおが屑、土砂、パーライトなどを混ぜ、モルタル状として凝固回収する。  
本製品は水に浮かぶため火災の危険性がある。可能ならば浮いている製品を封じ込めよう努め、除去後に汚染現場を水で完全に洗浄する。  
液体が蒸発して、更に多くの蒸気を発生させるため水流はその液体の方へ向けないほうがよい。掬い取るか、適切な吸収材によって水表面から除去し、流出物は化学品廃棄容器へ入れる。分散剤は使用してはならない。  
全ての発火源を速やかに取り除き、近傍での喫煙や火花、火炎の禁止措置を取る。  
その他の注意事項  
二次災害の防止策: 漏出した場所の周辺には、ロープを張るなどの措置を行い、作業員以外の立ち入りを禁止する。滑りやすい表面を床上に形成するため、完全に除去すること。

### 7.取扱い及び保管上の注意

取扱い  
取扱者のばく露防止: 眼、皮膚への接触を防止するため、適切な保護具(保護手袋、保護長靴、保護メガネ)を着用する。  
局所排気・全体排気: 取扱いは、換気の良い場所で行う。  
安全取扱注意事項: 取扱い後は手、顔をよく洗い、うがいをする。

#### 保管

安全な保管条件  
技術的対策: 皮張り防止のため、容器を密閉して保管する。  
混触禁止物質との分離: 情報なし。  
推奨する安全な  
容器包装資材: 容器は破損、腐食、割れなどのないものを使用する。

保管方法: 凍結、直射日光を避け、5°Cから35°Cの屋内で保管すること。

## 8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度: SBR : 設定されていない。  
 $\alpha$ -ノニルフェニル- $\omega$ -ヒドロキシ-ポリオキシエチレン: 設定されていない。

許容濃度:  
 日本産業衛生学会 SBR : 設定されていない。  
 $\alpha$ -ノニルフェニル- $\omega$ -ヒドロキシ-ポリオキシエチレン: 設定されていない。  
 ACGIH SBR : 設定されていない。  
 $\alpha$ -ノニルフェニル- $\omega$ -ヒドロキシ-ポリオキシエチレン: 設定されていない。

設備対策: 蒸気、ミストが発生する場合には、局所換気装置などの排気のための装置を設置する。  
 保管場所、取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備の設置が好ましい。

### 保護具

呼吸用保護具: 防塵マスク(有機ガス用)  
 手の保護具: 不浸透性保護手袋  
 眼の保護具: 保護メガネ(普通メガネ型、側板付き普通メガネ型、ゴーグル型)  
 皮膚及び身体の保護具: 保護長靴、保護衣

## 9.物理的及び化学的性質

### 物理的状态

形状: 液体  
 色: 乳白色  
 臭い: データなし。  
 pH: 7~8  
 凝固点: 約0°C  
 沸点: 約100°C  
 引火点: データなし。  
 燃焼性: データなし。  
 燃焼または爆発範囲  
 上限: データなし。  
 下限: データなし。  
 蒸気圧: データなし。  
 蒸気密度: データなし。  
 比重(密度): 約1.0g/cm<sup>3</sup>  
 粘度: データなし。  
 溶媒に対する溶解性: 水と任意に混合する。  
 nオクタール/水分配係数: 知見なし。  
 分解温度: データなし。  
 その他のデータ: SBRとして比重:0.92、ベンゼン、トルエン、四塩化炭素に溶ける

## 10.安定性及び反応性

化学的安定性: 通常の手扱い条件においては安定である。  
 電解質や凝集剤とは凝集を起こす。

### 危険有害反応可能性

避けるべき条件: 水禁忌物質との接触  
 混触危険物質: 水禁忌物質  
 危険有害な分解生成物: 情報なし。

## 11.有害性情報

### 製品有害性情報

急性毒性: データなし。  
 皮膚腐食性・刺激性: データなし。  
 眼に対する重篤な損傷・刺激性: データなし。  
 呼吸器感作性又は皮膚感作性: データなし。  
 生殖細胞変位原性: データなし。  
 発がん性: データなし。  
 生殖毒性: データなし。  
 特定標的臓器毒性:  
 (単回ばく露) データなし。  
 特定標的臓器毒性:  
 (反復ばく露) データなし。

吸引性呼吸器有害性: データなし。

#### 成分の有害性情報

$\alpha$ -ノニルフェニル- $\omega$ -ヒドロキシ-ポリオキシエチレンとして

急性毒性(経口): エチレンオキシドの付加モル数により、毒性値が著しく異なる(1,330mg/kg(エチレンオキシドの付加モル数10の場合) > 15,900mg/kg(エチレンオキシドの付加モル数20の場合)<CERI・NITE有害性評価書No.96(2004)>ため、分類できない。

急性毒性(経皮): エチレンオキシドの付加モル数により、毒性値が著しく異なる(1,800mg/kg(エチレンオキシドの付加モル数7の場合) > 10,000mg/kg(エチレンオキシドの付加モル数40の場合)<CERI・NITE有害性評価書No.96(2004)>ため、分類できない。

急性毒性(吸入): GHS定義による液体であるため、ガスの吸入は想定しておらず、対象外とした。蒸気・粉塵・ミストについてもデータなし。

皮膚腐食性・刺激性: CERI・NITE有害性評価書No.96(2004)のウサギを用いた皮膚刺激性試験の記述に、エチレンオキシドの付加モル数2~9の場合の原液が、「中等度から強度の刺激性を示した」とあることから、適用時間は不明であるが、区分2とした。

#### 眼に対する重篤な

損傷・刺激性: CERI・NITE有害性評価書No.96(2004)のウサギを用いた眼刺激性試験の記述に、エチレンオキシドの付加モル数2~15の場合の原液が、「中等度から強度の刺激性を示した」とあることから、「強い刺激性を有する」と考え、区分2Aとした。

#### 呼吸器感作性又は

皮膚感作性: 呼吸器感作性: データなし。

皮膚感作性: データ不足の為、分類できない。

生殖細胞変位原性: CERI・NITE有害性情報No.96(2004)、NITE初期リスク評価書No.96(2005)の記述から、経世代変異原性試験(優性致死試験)で陰性、生殖細胞 in vivo変異原性試験なし、体細胞 in vivo変異原性試験(小核試験)で陰性とあることから「区分外」とした。

発がん性: CERI・NITE有害性情報No.96(2004)、NITE初期リスク評価書No.96(2005)に毒性試験データの記載があるが既存分類がないため、専門家の判断に従い、分類できないとした。

生殖毒性: CERI・NITE有害性情報No.96(2004)、NITE初期リスク評価書No.96(2005)の記述から、親動物の一般毒性に関する記述はないが、妊娠率や胚数の減少が見られていることから区分2とした。

特定標的臓器毒性: データ不足の為、分類できない。

(単回ばく露)

特定標的臓器毒性: 初期リスク評価書No.96(2005)によれば、「雌の肝臓の相対重量増加、病理組織学的検査で、雌雄の肝細胞の脂肪変化」が、ラット90日間経口投与試験において、250mg/kg/日以上で認められている。しかし、250mg/kg/日は「区分2」のガイダンス値範囲外である。

よって、肝臓は反復ばく露の特定標的臓器に含まれない。

また、Symth and Calandra(1996)の文献によれば、心筋の巣状壊死はイヌだけでなくモルモット

にも認められている。イヌを用いるNPE20経口投与試験においては、心筋の巣状壊死が

0.02g/kg/日群(34日間投与)、0.04g/kg/日群(90日間投与)で認められており、これらの

投与量はいずれも、投与期間に変換後の「区分2」のガイダンス値範囲内である。

パブリックコメントではEO付加モルに分けてGHS分類を考えるべきと指摘されているが、EO

付加モルを限定していない本物質”ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル”として

は、有害性の最も高い分類を採用せざるを得ない。よって、イヌを用いるNPE20経口投与

試験において、心筋の巣状壊死が「区分2」に相当するガイダンス値の範囲内で認められ

たことから、GHS分類は「区分2(心血管系)」とするのが妥当と考える。

吸引性呼吸器有害性: データ不足の為、分類できない。

## 12.環境影響情報

生態毒性: 情報なし。

残留性・分解性: 情報なし。

生態蓄積性: 情報なし。

土壌中の移動性: 情報なし。

オゾン層への有害性: 情報なし。

その他: 河川などに流出した場合には、広範囲にわたり白濁汚染することになる。

水生環境有害性(急性): 情報なし。

水生環境有害性(長期間): 情報なし。

#### 成分の環境影響情報

$\alpha$ -ノニルフェニル- $\omega$ -ヒドロキシ-ポリオキシエチレンとして

水生環境有害性(急性): NPE1.5: 甲殻類(ミシドシユリフ)の48時間 LC50=0.11mg/L(CERI/NITE有害性評価書、2005)から、区分1とした。NPE9-10: 魚類(ブラウンマス)の96時間LC50=1.0mg/L(CERI・NITE有害性評価書、2005)から区分1とした。NPE30: 魚類(ブルーギル)の96時間LC50 > 1000mg/L(CERI・NITE有害性評価書、2005)から、区分外とした。[注記]ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテルをNPE(n: エチレンオキシドの付加モル数)と略号を用いて記載した。

水生環境有害性(長期間): NPE1.5、NPE9-10: エチレンオキシドの付加モル数や試験条件によって分解性や生物蓄積性が異なり、各鎖長についてのデータが得られないことから分類できない。NPE30: 難水溶性で

なく(エチレンオキシドの付加モル数の増加により水溶解性は増加し、付加モル数が7以上で水に可溶。(CERI・NITE有害性評価書、2005)から、急性毒性が低いことから区分外とした。  
 [注記]ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテルはエチレンオキシド鎖長が短くなるほど毒性が強まることから、いくつかのエチレンオキシド鎖長について分類を例示した。  
 なお、ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテルをNPE<sub>n</sub>(n:エチレンオキシドの付加モル数)と略号を用いて記載した。

### 13.廃棄上の注意

残余廃棄物:

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害レベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の規準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装:

廃棄物処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上、委託する。容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の規準に従って適切な処理を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。高圧ガスの容器を廃棄する場合は、専門業者に回収を依頼すること。

### 14.輸送上の注意

国内規制

海上規制情報: 該当しない  
 航空規制情報: 該当しない  
 陸上規制: 該当しない  
 海上規制情報: 該当しない  
 海洋汚染物質: 該当  
 MARPOL 73/78附属書II  
 及びIBCコードによるばら  
 積み輸送される液体物質: 非該当

輸送の特定の安全対策  
 及び条件:

運搬に際しては容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

### 15.適用法令

化審法: 優先評価化学物質(法第2条5項)  
 消防法: 非危険物  
 海洋汚染防止法: 有害でない物質(施行令別表1の2)  
 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)  
 外国為替及び国際易法: 輸出貨管理令別表第1の16の項(2)  
 バーゼル法: 廃棄物の有害成分・法第2条第2項、施行令第1条別表第1)  
 PRTR法: 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)

### 16.その他の情報

本データシートはJIS Z 7253:[GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)]に準じて作成しており、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、現時点で当社の有する情報を取扱事業者にご提供するものです。

記載内容は、現時点で入手できた資料、情報、データなどに基づいて作成したものであり、新しい知見によって改訂されることがあります。

本データシートは必ずしも製品の安全性を保証するものではなく、当社が知見を有さない危険性、有害性を持つ可能性があります。

取扱事業者は本データシートを参考として個々の取扱い、用途、用法などの実態に応じた安全対策を実施のうえ、お取扱い下さい。

